

ジョニー・コック

- 1 五月の朝 ジョニー・コックは目を覚まし
「手を洗う水をくれ
鉄の鎖でつないである
猟犬いぬを放してくれ」と言いました
- 2 ジョニーの母が聞きつけて
悲しみに手を揉みながら 言いました
「ああジョニー お願いだから
緑の森には行かないで
- 3 「上等の白パンはたくさんある
上等の赤ワインもたくさんある
ジョニー お願いだから
鹿狩りになんか行かないで」
- 4 しかしジョニーは しなう弓と
たくさんの矢を用意して
焦げ茶の鹿をしとめようと
デュリスディアールに行きました
- 5 ジョニーがメリーマスまで降りてきて
コヌカグサの荒れ野に踏み込むと
ヒースの茂るその下に
鹿が一頭見えました
- 6 ジョニーが射ると 焦げ茶の鹿は飛び跳ねて
脇腹に傷を負いました
流れる川の水際で
猟犬いぬが獲物の息の根を止めました
- 7 ジョニーは鹿を手早く裂いて
肝と肺を取り出して
まるで貴族の息子にふるまうように
血に飢えた猟犬いぬにも与えました
- 8 ジョニーと猟犬いぬは鹿の肉をたらふく食べて
赤い血をたらふく飲みました
ジョニーは血まみれの猟犬いぬともども

死んだように眠りました

9 老いぼれ爺じいが 通りがかりにこれを目撃
呪じいわれて死んでしまえ 老いぼれ爺じい
七人の森番がいるヒズリントンに
老いぼれ爺じいは告げ口に行きました

10 「白髪頭の爺さんよ
何か変わった知らせはあるか」
「取り立てて 何もございませんが
目にしたものをお知らせに

11 「メリーマスに降りてきて
ヒースの茂みを通ったとき
美しい若者が
猟犬いぬといつしよに眠っていました

12 「着ていたシャツは
りっぱなオランダ織りでした
羽織った上着は
粗いリンカーン織りでした

13 「袖についたボタンといえは
それは豪華な金ボタン
りっぱな猟犬いぬが側で居眠り
でもその口は血で真っ赤」

14 一番目の森番が言いました
七人のうちでおかしら格
「もしそれがブレディスリーのジョニーなら
近づくのは無理だろう」

15 六番目の森番が言いました
おかしらの妹の息子にあたるもの
「もしそれがブレディスリーのジョニーなら
すぐにも殺したほうがいい」

16 森番たちは一の矢で
ジョニーの膝を傷つけました
七番目の森番が言いました
「二の矢でジョニーの息の根止めよう」

17 ジョニーは檜の木に背をもたせ
岩に足を踏んばって
森番たちを皆殺し
ひとりを除いて皆殺し

18 残った男の肋骨三本へし折って
首の骨までへし折って
体を二つ折りにして 馬に乗せ
「火急の知らせにとつと帰れ

19 「命じた通りにうたつてくれる
かわいい鳥はいないのか
母さんの部屋に飛んでいって
ジョニーを連れ帰るよう伝えておくれ」

20 椋鳥は 母の窓辺に飛んでゆき
さえずり鳴いて言いました
調子よく繰り返すのは
「ジョニーがずっと待っている」

21 ハシバミとリンボクを柀にして
ジョニーの担架をつくりました
たくさんの たくさんの男たちが
ジョニーを連れて帰りました

22 年老いたジョニーの母が
涙を流して 言いました
「ジョニー 狩り場に行くなと
もう 言われることもないでしょう

23 「ブレデイスリーへ
あれこれ獲物を持ち帰ったけれど
こんなにも悲しいものを
持つて帰ったことはありません

24 「老いぼれ爺に呪あれ
呪われて死んでしまえ 老いぼれ爺
メリーマスの一番高い木で
朝一番に 縛り首」

25 ジョニーのしなう弓は折れ

デユリスデイアーに 猟犬も皆殺されて
ジョニーの狩りは終わりました
ジョニーの遺体は葬られ

(中島久代訳)